

## 新宮山彦ぐるーぷ 第1798回

### 南奥駆道(玉置辻)本宮・備崎)の連休前点検巡視

実施日 平成27年03月22日(日) 晴

参加者 川島 功、沖崎吉信、生熊千満子、畑林清子、

児嶋道夫、青木宏充、大門健一、塩川真武、

濱野兼吉、亀の子会「堀 佳子、有竹由紀子」

計11名

車回送者：生熊敏男、畑林秀味、中村直樹。3名。

備崎橋を渡った河原駐車場に集合し、川島代表の挨拶と沖崎さんからの参加者の紹介のあと、車3台に分乗し出発地点の玉置辻(本宮辻)に向かう。沿道の山々には山桜が満開で、いよいよ春本番を告げている。

大阪からの3名は、毎週の如く大峰を闊歩している大峰の主・青木さん、行者で今回初めてこの南奥駆道を歩くという大門さん、塩川さんとは初面識で塩川正十郎さんのお孫さんかと思っただけでなく、鎌や鉈を用意し張り切ったの参加である。あと有竹・堀さんは「亀の子」所属のベテラン。

本宮辻から備崎までは単純にみれば、標高差(約850m)の下りコースである。しかし途中には今回最高峰の大森山(1078m)五大尊岳(825m)大黒天神岳(578m)七越峰(262m)と上り下りが連続し健脚向けの厳しいコース。修験道のコースからいえば逆峰。順峰ほどの険しい登山ではないが、急峻な下りもまた同様厳しく長いコースである。

沖崎さんから途中に取付ける標識と釘や金槌の入った鞆を預かり、7時50分に出発。竹筒辻で行者の大門さんに「コ

ースから少し外れた所に第九摩・水呑金剛があるので如何ですか」と尋ねるが今回は行かないことになる。



備崎橋河原P・始礼 玉置辻・出発前 大森山(1078m)山頂

私は途中の小径沿いにポツリポツリと咲いているバイカオウレンをカメラで撮る。少し遅れて児嶋さんは自前の標識を付けたが旧篠尾辻(大水呑峠)に到着。

ここは大平多山(899m)、甲ヶ森(986m)への分岐。周辺を刈り開き標識を取付け、赤テープを巻き道迷い防止策を講じる。一段落したところで休憩し、畑林さんの苺や紫芋の羊羹の差し入れがあり頂く、山歩きには甘い物が何よりの御馳走だ。

今回の最高峰大森山への途中に大崩落跡があり、約20分で山頂(1078m)へ、我々より早く出発していた方が休憩中で、写真撮影をお願いする。聞けば大阪からで今日は五大尊岳を往復することのこと。

大森山三角点のある点名：大水ノ森(1044m)近くには、倒木があり塩川君がノコギリで処理。急な下りが続き枯葉で滑らないように慎重に下る。この地点に設置されたロープは、青木さんが危険防止のために取付けられたとのこと、点検

の結果問題なし。

篠尾辻の手前に第八靡・岸の宿。篠尾辻過ぎると直ぐ切畑辻(七色辻)と呼ばれ、萩・切畑・七色への分岐である。

篠尾辻・切畑辻を越え第七靡・五大尊岳を目指す。五大尊岳・北峰には不動明王が安置されていたが、台座を残して行方不明になり、新しい不動明王があるがどこかアンバランスである。五大尊岳は双耳峰で、北峰を過ぎた南峰(825m)で昼食。



切畑辻・標識設置

五大尊岳・北峰

南峰(825m)で昼食

五大尊岳から金剛多和ノ宿跡(六道ノ辻)までの下りは急峻で立木に掴まりながら下る。幾箇所かロープが備え付けられている。

沖崎さんから多和についての説明がある。多和とは鞍部のことだという。漢字では垓と書くはずだ。金剛多和は冥界への入口らしい。

金剛多和からなだらかな登りを五番靡・大黒天神岳へまた登り返す。山頂の三角点の後に新に標識を立て、その下に児嶋さんの特製アルミ板の標識も追加し、周りの茂ったシダを刈り払う。



チェンソー倒木処理

金剛多和(六道ノ辻)

大黒天神岳・標識設置

ここまでは尾根径を吹き抜ける風も心地よく、上り下りは大変であるが順調よく進み、倒木は楓が一本横たわり径を塞ぐのみで、川島さんの担いだチェンソーはこの時の1回唸りを上げたきりで終わった。

途中地元の区有林があり、管理のために「山改め」を1月に行った記録が途中の杉や檜に墨で記されている。松茸が生えるようで、勝手に山中に入る事を禁じる墨書が立木に記されている。「山改め」があったこともあり峰中は特に気になることもなく通過する。

途中山在峠で休憩をとり、水分補給や行動食をとる。

いよいよ最後の1時間半、疲れてはいるがもう少しの頑張りで終了すると思えば元気もでる。山在峠から第四靡をめざし吹越権現の吹越宿跡へと下る。

ここからまた登り返し吹越峠を過ぎ反射板のある地点を過ぎると大斎原が望める「ささゆり展望台」へ。ここから大鳥居や果無の山脈、野竹法師、如法山を眺めながら休憩をし、あと僅かとはいえ九十九里をもって半ばとすれば、まだ先は長い。次の七越峰に向かう。七越峰は「七かしらの峰」と呼



ばれ、吉野から数えて七番目の峰であるといういわれがある。



宝塔印塔の山在峠へ

吹越宿・林道

ささゆり展望台

ここで最後の小休止をして備崎に向け下る。作業満行間際にまた登りである。青木さんから最後の登りと声をかけられた生熊さんは「楽しんで登ります」と答えた。私はこの人は凄いな！と思った。あれだけ歩いてまだ「楽しむ」ということばを発する余裕。私は最後の力を振り絞り登った。最後に川石を並べた経塚遺跡らしい所だけは、カメラにおさめ備崎に辿り着いた。

休憩を含め約9時間弱、南奥駆道の本宮辻から備崎まで峰中を点検の結果、通行には支障がないことを確認した。

今回の巡視、点検したコースは1日の行程としては、時間もかかりまた上り下りが多く、健脚向けのコースである。私達は逆峰を踏査したが、順峰はさらに厳しい登りの連続である。修験の道であるから当然であるが、この厳しい上り下りが行者を鍛え、人としての優しさを育むのだろう。

「六根を清浄し懺悔する」精進潔斎をして修行に励むことは己を救い。また他人を救うことになるのである。奥駆道は物見遊山で歩ける山ではない。それなりの経験や技術も求

められる。

今回の巡視には車の配送を下さった中村直樹さん、生熊敏男さん、畑林秀味さんらの協力があったのである。ただただ感謝。本当に有り難うございました。

また、青木さんは危険な箇所にはロープや標識の取付けを、大峰を歩きながらコツコツと続けておられる。児嶋さんの標識も随分アチコチで見られる。見えない所でしょうか活動していることもまた今回は認識できた

大門さんの勤行を聞けなかったのは残念ですが、またお会いすることもあるでしょうそれを楽しみにとっておこう。塩川さんのひたむきな鈍の使いやシダを刈り払う姿はとても印象的でした。

体力的には疲れたが、渡る風の爽やかさ、山桜やミツバツツジの花は随分と和まされた今回の活動であった。

### 行動タイム

新宮 6:00 → 6:35 備崎橋・河原P 6:50 → 7:35 本宮辻 7:50 →  
8:45 大平多山分岐 8:55 → 9:15 大森山 9:20 → 大森山三角点  
9:35 → 9:50 篠尾辻 10:00 → 10:10 切畑辻 10:15 → 10:50 五大尊  
岳・北峰 10:55 → 11:05 五大尊岳・南峰 11:50 → 12:45 金剛多  
和 13:00 → 13:15 大黒天神岳 13:25 → 14:10 山在峠 14:20 →  
14:40 吹越宿跡 → 吹越峠 15:15 → 15:20 ややゆり展望台 15:30  
→ 15:40 七越峰 15:45 → 16:35 備崎 → 16:40 備崎橋・河原P  
16:50 → 17:25 新宮

(記 濱野)